

学園だより



Vol.207

June 2023

弘前大学

特集

新学期を迎えて 04



作品名：『SMOKER』シルクスクリーン サイズ42.0cm×29.7cm
制作：教育学部学校教育教員養成課程 美術専修 3年 赤石 晴美

巻頭言 02／海外だより 24／CLOSE-UP 研究室紹介 26／新任教員紹介 28／TOPICS 32

巻頭言

2023年度の新入生の皆さん、ようこそ弘前大学へ！弘大生となられた皆さんに、本学を代表して心からのお祝いを申し上げます。ご入学、誠に

におめでとうございます。

3年にもおよぶコロナ禍という大変な試練を乗り越えて、皆さんは弘前大学に合格し、晴れて大学生となりました。大学生活は、将来、進むべき道を定めるための大事な期間であり、人生を変える大きな分岐点とも言えます。弘前大学への受験・進学を決めた理由は様々とは思いますが、皆さんはその大事な期間を本学において過ごすことを選択したのです。弘前大学が、皆さんの可能性を大きく開花させる舞台となるよう、心から願っています。

弘前大学の歴史については入学式で紹介しました。ここでは、皆さんがこれから学ぶ弘前大学の魅力を紹介したいと思います。弘前市や青森県には娯楽施設が少なく、冬は寒く雪が多いなど、都会での生活に比べると不便なところもありますが、自然の豊かさや人情味豊かな地域住民に囲まれた暮らしなど、都会にはない良さがたくさんあります。開講する授業科目は多彩で、本学でしか経験できない授業や実習等も準備されています。もちろん、サークル活動、ボランティア活動、および海外留学など、何でも挑戦することができますし、皆さんが希望すれば様々な資格を取得することもできます。卒業生は地元に限らず約7割は県外に就職しており、全国各地で活躍しています。日本経済新聞による「採用を増やしたい大学ランキング」では、弘前大学が2018年に第1位、そして2021年には第2位に選ばれています。弘前大学ならびに地域での学び・暮らしを経験した卒業生が、「採用してみたい！」と思わせる人材に成長しているからこそこの評価であり、この上なく嬉しく、また誇らしく思っています。次に、研究に関するトピックスを紹介します。文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム事業（センターオブイノベーション：COI事業、2013年～2021年）に続き、共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT事業、2022年～）に採択されるなど、弘前大学は研究・イノベーションの領域で全国的にとっても注目されています。さらに私たちは、世界トップレベルの研究力が期待される大学を支援する「国際卓越研究大学」に次ぐ大型の支援事業である「地域中核・特色ある研究大学」の指定を目指しています。すでにその第一段階である「産学官連携・共同研究の施設整備事業（ハード面）」に採択されており、今年度は「強

大学生活を！

様々なことに挑戦する

失敗を恐れずに

化促進事業（ソフト面）」の申請に向けた準備を進めています。先のCOI-NEXT事業では、健康教養を有する若手人材の育成を目標の一つに掲げており、弘大生の参画も計画されています。弘前大学が「頑張る地方大学」さらには「日本一の地方大学」と呼ばれるよう、教職員そして本学の構成員となった皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。皆さんの積極的な参加、よろしくお願いいたします。

皆さんは、4年（医学科の場合は6年）もの自由な時間を平等に与えられました。これほど長い自由な時間が得られるのは、人生の中で大学生だけだと思います。何もしなくても刻々と過ぎていくこの貴重な時間をどのように使うかによって、4年後の皆さんの未来が決まると言っても過言ではありません。皆さんの中には学びのスタイルや生活のリズムの違いに戸惑い、この貴重な時間をどう過ごして良いのか、悩んでいる方もいるのではないのでしょうか？大事なことは、個々が潜在的に持っている能力を開花させ、皆さん自身の価値を高めることです。そのためには、まずは自分自身を客観的に見つめ直し、自分



弘前大学長
福田眞作

自身をよく知る必要があります。家庭と学校・予備校といった限られた空間で過ごした皆さんは、自分が何を好きで、何に興味があるか、あるいは自分自身の強みや弱みは何なのか、意外と知らないものです。授業だけでなく、サークルやボランティア活動、さらにはアルバイトなど、多様な経験を重ねることで、皆さんひとり一人の個性、潜在能力が引き出され、やがては将来の夢やなりたい自分の発見につながっていくはずです。失敗を恐れて未経験なことに挑戦することを躊躇している学生さん多いと思いますが、知りたい・学びたいという知的好奇心のままに、これまで関心がなかったことにも視野を広げ、勇気をもって一歩踏み出してみてください。もちろん挑戦したことのすべてが結果に結びつくわけはなく、むしろ失敗ばかりでうまく行かないことの方が多いかも知れません。それでも、自ら望んで獲得した知識や汗を流した経験は、生きる知恵となり、必ずや未来の皆さんを支える力となると信じて、失敗を恐れずに様々なことに挑戦してみてください。ただし、自分の限界を超える状況に陥ったときにどう対処するのか、その術は知っておく必要があ

ります。順調なときには自分に厳しくあっても良いですが、うまくいかないときには、まずは自分自身に優しくあることです。努力が足りないと自分を責めたりせずに、いったん目の前の課題から距離をおき、心身の休息を第一に考えてください。心身がリフレッシュできれば、不思議と前に進むエネルギーが湧いてくるものです。また、友人や家族、あるいは教職員からのアドバイスや励ましが、突破口になることがあります。もちろん学内にも様々な相談窓口がありますので、決して悩みは一人で抱え込まずに、必ず誰かに相談してください。

ここで、皆さんのこれからの学びに大きな影響を与えそうな対話型AI（人工知能）、生成系AIの利活用について考えてみたいと思います。Chat GPTのような生成系AIは、インターネット上に存在する膨大なデータを使って、入力した要望に対する文章や画像などを瞬時に作成してくれます。適切に使うことができれば、大変有用なツールとなりますが、利用にあたっては様々な問題があることも知っておく必要があります。まず、インターネット上の情報は正しいものばかりではないため、生成系AIで作られた文章には誤りが少なくありません。また、入力した内容に含まれている機密情報や個人情報が外部へ漏洩するリスクが懸念されています。課題に対するレポート作成や論文の作成などに、皆さんが利用すると思われるが、生成された内容を批判的に吟味し、自分なりの考えで完成させるプロセスがなければ、文章力や思考力を鍛える貴重な機会が失われることになります。思考した内容を自分で適切に文章化し、豊かな表現力をもって伝えること、その繰り返しでしか社会に出てから最も重要なコミュニケーション能力を高めることはできません。本学における生成系AIの利用については、すでに注意喚起を行っていますが、皆さんの学びの世界を広げるための利活用まで禁止することは考えていません。適正かつ効果的に利用しつつ、皆さんの学びを深化させて欲しいと願っています。

入学式から数ヶ月が過ぎました。大学での授業や新しい友人との出会いを楽しんでいるのでしょうか。また、入学式で触れた日本一の桜と称される弘前公園の圧巻の桜、弘前城、そして公園からみえる冠雪の霊峰・岩木山をご覧になったのでしょうか。四季折々の色鮮やかな自然の風景や全国的に有名なお祭りなど、「あずましい街・弘前市」での暮らしの魅力も大いに楽しみ、皆さんの大学生活を充実したものとしてください。

若い人に流行するアウトドアグッズの商標に、直訳するなら「北顔」というものがありますね。米国発、もともとダウンジャケットなどで有名ですが、最近は大学に向かう道々でも、「北顔」と大書されたリュックサックを背負った学生さんを多く見掛けます。

もっと正確に直訳すると「ザ・北顔」です…。「北顔」って何？日本でいえば青森県民や北海道民の典型的な顔？？

というわけで、ウィキペディアなどを繰り調べてみました。山の「北壁」とのこと（なるほど「北側の顔」ですね、誤訳失礼しました）。北半球では、山の北側は気象も地形も条件が厳しく、登山家には挑戦しがいの対象だ

1955年以降1970年頃までは、日本は年9%を超えるスピードで成長しました。「キャッチアップ」の時代であり、物質的豊かさという明確なニーズと、先行する他国（米国など）の手本がありました。アレンジも必要でしたが、大局的にみれば、先行して登った人の道がはっきりとみえていた時代です。結果的に、10年で倍以上の総所得になりました。

片や今の時代、私たちは「フロントランナー」です。物質的に基本的欲求が満たされていて、次のニーズの所在も満たし方も先行者がおらず、道筋みえない状況です。選ぶことのできるの、全く価値のない道か、先の見えない北壁か——その二択です。前者は混雑して過当競

北壁に挑む

人文社会科学部長
飯島 裕胤



そうです。

みなさんは北壁に挑みたいですか？挑みたくないですか？少し冷ややかにみれば、「なぜ山に登るのか。そこに山があるから」という素直な考えにあきたらず、わざわざ困難な登山を試みんとする「物好き」の思考ともいえます。一方で、この3月に行われた弘前大学卒業式では、福田学長は卒業生に向けて、「この先の人生、分かれ道で迷うこともあるでしょう。そのときは困難な道をいくべきです」とエールを送っていました。

学長メッセージの意図は、私がこれから述べる「処世訓」の話ではないのかもしれませんが、もっと高次元の話、たとえばアフガニスタンで診療にあたりつつ井戸を掘り、灌漑用水路を引いて緑の大地を取り戻した中村医師（中村哲著『天、共に在り—アフガニスタン三十年の闘い』NHK出版、早魃の中で汚水に口をつけて衰弱した幼児に次々直面し、「何より水だ」と井戸掘りを決意しました）のような、崇高な精神を言ったのだと思います。

ただ、「北壁に挑む」という考え方は意外にも、「私たちの時代の生き方」と合致している気がするのです——

争、後者であれば手探りで登っていく他なくペースは落ちます。日本では人口減少も加わり、1%に満たない低成長が続いています。私たちはとても困難な時代を生きているのです。

最後に、入学された皆さんが属する「次世代」について考えてみましょう。活躍する若い人をみると、私たちとはマインドが異なって自然体、ゆるく軽やかな足取りで北壁を登っているように思います。雲が低く垂れ込め山頂が見えない状況でも、深刻ぶらずにぐんぐん登っていきます。

最初から北壁に挑む必要はありませんが、いずれ北壁を目指す以外に、成功はありません。私たちは私たちの感覚で、皆さんは皆さんのマインドでいくことになりそうです。

足の底や手のひらで大地を感じながら、静かに一步一步北壁を進んでいきましょう。山は問いかけても答えてくれず、だからこそ気高いのです。

入学おめでとうございます。弘前大学での新しい生活をいかがお過ごしでしょうか。これまでの学校生活との違いに戸惑いながらも、大学の自由な雰囲気を享受されていることと思います。皆さんにおかれましては、この自由な雰囲気の中で、一人の自律した学習者として知的・人格的・社会的に成長して欲しいと願っています。以下では、その際に大事にしてほしい三つの学びについて述べていきます。

一つ目は、「市民」としての学びです。2015年6月には選挙権年齢が、2022年4月からは成年年齢が、それぞれ18歳に引き下げられました。つまり、皆さんには、自身に関わる様々なことがらについて、情報を収集し、これまでに得た知識をもとに判断し、しかるべき行動をとることが期待されています。その際、皆さんの判断や行動が自分を取り巻く他

野があることに驚きと同時に戸惑いを抱いている方もいらっしゃるかもしれませんが、講義等を通じて、自らが追究したいテーマと学問分野を見つけてほしいと思います。

三つ目は、「プロフェッショナル」としての学びです。教育は、社会を自分なりによりよく生きていくために、一人ひとりの発達・学習を助ける営みです。それゆえ、単に知識や技能を伝達するだけでなく、一人ひとりの学習者がそうした知識や技能を自らのものとして獲得するように働きかける必要があります。そのためには、教育学や教育内容についての専門的知識や教育方法・技術に関する知識だけでなく、それらを手がかりとしながらも、実際の他者との関わりの中で、相手や状況に応じた説明や応答をおこなっていく専門性を培っていく必要があります。こうした専門性は、単に実践

三つの学びを大切に

教育学部長

福島 裕敏

者（ヒト・モノ・コト）にどのような影響を及ぼすのかについて思いをめぐらせる必要があります。そのためには、自分の内面と向き合うとともに、様々な問題が複雑に絡み合う現実を学際的な視点で考えることが重要です。教養科目等を通じて、学校での教科の区分や大学での学部・学科の区分を超えて、幅広く多面的な視点から物事について考え判断し行動していく学びを重ねて欲しいと思います。

二つ目は、「研究者」としての学びです。研究 (Research) とは、「ある『問題』と思われることがらに対して、その答え（事実、説明、対応）を求めて、体系的に探究すること」です。すでに高校時代に「総合的な探究の時間」を通じて、そうした学びを経験されてきた方も少なくないでしょう。ただし、大学では、これまで蓄積されてきた学問的知見や方法をもとに、筋道を立てて探究することが求められます。研究という言葉を目にすると、何か偉大な発見や発明をしなければならないという強迫に駆られるかもしれませんが、もちろん、研究を通じて得られた成果も大事ですが、より重要なのは、自分なりに「問い」と「答え」の間を埋める作業を通じて、自身の生き方の土台となる物の見方・考え方・関わり方を形成していくことです。大学に入って、様々な学問分

を重ねる中で身につけていく訳ではなく、教育に関する専門的知見に照らして、自らの実践を振り返り、他者の理解と自らの実践的見識を深めていくことを通じて培われるものです。是非、大学での学びと実際の教育現場での学びとを往還させながら、教育プロフェッショナルとして成長して欲しいと思います。

これら三つの学びを通じて得たこと、すなわち、自らを取り巻く状況を幅広い多面的な視野で捉え、自分なりの物の見方・考え方・生き方を大事にしながら、他者と応答的に関わっていくことは、VUCA (Volatility: 変動性 / Uncertainty: 不確実性 / Complexity: 複雑性 / Ambiguity: 曖昧性) と呼ばれる先行きが不透明で将来の予測が困難な時代において、個人と社会のウェルビーイングを実現していく上で極めて重要なことです。是非、講義や演習といったフォーマルな大学での学びだけでなく、サークルやアルバイトなど大学生活全般を通じて、三つの「学び」を重ねていってください。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。2020年から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、ようやく今年5月8日から感染症法上の位置付けがインフルエンザ等と同じ5類となり、社会も正常化に向かっていきます。とは言え、皆さんにとっては、新型コロナウイルス感染症の影響で、高校生活、受験勉強において、様々な困難を経験されたと思います。その困難に打ち勝って合格されたことを是非自信としてください。そして、前向きに進んで欲しいと思います。人間は、逆境にあって壁を乗り越えて初めて成長し、乗り越えた人だけに見える世界があります。人生はこの繰り返しですので、今後どんな困難があっても、決して挫けることなく、頑

果、鵬桜会会員の皆様を中心に、地域の皆様、本学教職員の皆様の御厚志により4千万円を超える御支援を賜りました。この「弘前大学医学生支援金」を用いて、本町地区での100円弁当（昼・夕）、学内アルバイト斡旋（講座での研究支援業務、事務部門での事務補助業務、除雪や除菌等の作業補助業務等）、学生支援緊急給付金事業、生活支援奨学金貸与、学生自身が企画・立案する学生支援事業、抗原検査キットの希望学生への無料配布等を行うことができました。

最近では、同窓会組織に入ると、会費の支払いや、個人情報提供を理由として、卒業生の新規入会者数が激減しています。しかし、医学科学生が困った時に助け

医学部医学科同窓会 「鵬桜会」入会の意義

医学部長・医学科長
廣田 和美



張って壁を乗り越えて欲しいと思います。

さて、医学部医学科には独自の同窓会組織「鵬桜会」があります。「鵬桜会」の名称は、名の示す如く日本の「桜」の名所で育った会員が「大鵬」の如く、日本はもとより世界に雄飛活躍することを期待して命名されました。

直近の3年間、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、弘前大学独自の「学生支援緊急給付金給付事業」、「弘前大学生活支援奨学金の貸与」、「クラウドファンディングによる100円昼食弁当・夕食の提供プロジェクト」等の様々な学生支援を行いました。しかし、医学科学生は、附属病院での感染を防止する観点から、アルコールを提供するアルバイトの禁止、国内特定地域への移動の許可制等、他学部学生よりさらに厳しい対応を求めなければならませんでした。その結果、アルバイト収入の減少などにより、他学部以上に経済的に困窮する学生が増加しました。そこで、医学科学生を支援するための「弘前大学医学生支援金」を設立するために、医学部同窓会である「鵬桜会」に御賛同頂けた結

てくれるのはOBの方々、つまり鵬桜会の皆さんであることを、新入生の皆さんには是非知っていただきたいと思います。そして、鵬桜会が継続発展することで、さらなる学生支援が可能となり、皆さんが安心して勉学に励むことができます。医学科新入生の皆さん、この鵬桜会組織を守るためには、あなた方の協力が必要です。是非とも医学部同窓会組織「鵬桜会」を大事にしてくださいと思います。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんを保健学科へお迎えすることができ、大変嬉しく思っています。入学式で希望にあふれる皆さんの姿を見て、改めて歓迎の気持ちが強まりました。皆さんは3年間の高校生活や入学試験において新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた中でたゆまぬ努力をし、弘前大学へのご入学を果たされました。心から祝福すると共に敬意を表します。入学時の気持ちを忘れずに、充実した学生生活を送ってください。皆さんが卒業時に“弘前大学に入って良かった”と思ってもらえるように、保健学科の教職員一同サポートをしたいと思っています。今年の5月から新型コロナウイルス感染症の扱いも変更

にすると中心の種のあるところが星型に見えるので、リンゴを輪切りにするのを“スターカット”というのだそうです。リンゴと同じように、皆さんの一人一人の中にも将来星のように輝く素質が秘められており、その素晴らしい素質を見つけ、磨き、光り輝くように導くのが教育や大学の役割であるため、リンゴが教育のシンボルとなったそうです。私達教職員は、皆さん一人一人が素質を伸ばし、新しい時代を担う立派な卒業生として巣立っていける様に精一杯指導や手助けを致しますので、皆さんも自分の目標を持ち努力をしてください。

保健学科は医療系専門職の教育を行う学科ですので、皆さんはそれぞれの専門職の資格取得を目指して学業に

新入生の皆さんへ

医学部保健学科長
齋藤 陽子

なり、様々な制限が緩和されてきました。病院などの保健医療施設での実習においては制限が加わる事もありますが、通常の学生生活には課外活動やアルバイトなども含め制限がなくなり、私達教職員も嬉しく思っています。基本的な感染対策は必要ですが、課外活動に打ち込んだり友情を深めたりしてください。大学時代は人生の基盤形成に大きな役割を果たす時期であるといっても過言ではないでしょう。ぜひ授業以外でも様々な活動を通して、他の専攻や他学部の友人も作り、職種によるアプローチや考え方の違い、また患者さんや一般の方の気持ちも理解できる、広い教養や見識、思いやりの心を身につけていただきたいと思います。幸い、保健学科校舎の隣には附属病院や医学科校舎がありますし、保健学科には専攻や学科を超えて履修出来る科目もあります。是非、横のつながりを作って実り多い学生生活を送ってください。

ここ弘前市は、おいしいリンゴの産地として大変有名ですが、欧米では、リンゴが大学や教育のシンボルとされている事を皆さんはご存知でしょうか。リンゴを輪切り

取り組むことになります。各自が目指す専門職の国家試験を受験するためには卒業までに必修科目である講義や実習等の単位を沢山取得しなければなりません。国家試験は資格試験であり競争試験ではありませんので、是非、合格率100%を目指して互いに助け合いながら学業に励んでください。一方で、学生生活においては、悩むこともあると思います。悩んだり考えたりすることも成長に繋がるとは思いますが、一人で悩まず、友人や家族、教職員等に相談してください。また、周囲にその様な人がいたらそっと寄り添い話を聞いてあげてください。お互いに支え合いましょう。無理をして自分を追い詰めず、時には立ち止まる勇気を持ってください。

新入生の皆さんの学生生活が、楽しく実りあるものとなることを祈念し、学科長からの歓迎の言葉とさせていただきます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

いろいろな希望や計画をお持ちのことだろうと思います。大学生の期間は、人生の中でも最も充実した、また変化に富み、それを受け入れることができる柔軟さを持った大切な時期だと思います。学業に限らず、豊かな感受性、人間性を身につけて行ってください。

弘前大学の使命の1つに地域のリーダーを養成するというものがあります。リーダー論の本は昔からたくさんありますが、2023年に「日本のリーダー達へ 私の履歴書」葛西敬之著 日本経済新聞出版が発刊されました。葛西敬之氏は当時の日本国有鉄道に就職し、後に国鉄分割民営化を推進し、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）代表取締役会長を務めた人物です。著書の中で氏は、自由な思考と自律性

氏の「自由な思考」を言い換えると「既成概念にとらわれない柔軟な思考」ということになるとは思います。その実例として、自動車メーカー、スズキの軽自動車ワゴンRを挙げることができると思います。ワゴンRという車は、販売前のスズキ社内では上層部に「売れない」と酷評されていたそうですが、開発・販売にゴーサインが出され、大ヒットとなり商業的にも成功しました。

「自由な思考」をまた別の角度から表現すると、業務内容にもよりますが、社会人では「正解のない課題に対して取り組んでいくこと」が多くなります。すなわち、評価基準やループリック等がない状況に対応していくことが求められます。

終わりの部分は、独りよがりにならないということですが、経験年数が増えていくにつれ困難になります。経験が増えれ

新入生の皆さんへ

医学部心理支援科学科長
玉井 康之



について述べています。引用しますと、

リーダーにはビジョンを示す必要がありますが、その際、鍵を握るのは自由な思考です。世の中には「与えられた条件は所与のものであって、その中で最適解を求める」と考える人が多いように思います。学校教育では学んだことの中から課題が与えられ、それに対する答えや評価の物差しも決まっています。この環境に慣れすぎると「人に課題を出してもらい、そのなかで良い答えを出して高い評価を得たい」という消極的、隷属的な考え方に陥ります。これは学校秀才がはまりやすい罠です。

制約条件や周囲の評価から自由になり、現実を直面して合理性と正当性に基づき構想を練る。そして独立自尊の気構えで自律的に判断、行動することがリーダーに求められているのです。人に決めてもらう、民意に従うというのは愚の骨頂です。

一方で自信を持ちすぎること問題です。自らの責任で決断し行動する前に、必ず気を許せる腹心と意見を交換し吟味する。つまり参謀・腹心に支えられた自律性というものが大事なのです。（前掲書p145）

ば知識や技術は高まっていくのですが、同時にそれまでの「これでうまくいった」という信条、信念、確信といったものが形成されていき、思考が硬直化し、痩せ細っていくことによって、成功体験が形骸化していくことが往々にしてあります。ベテランになればなるほど、誰も注意してくれません。このことに本人が気づくのはなかなか困難です。こうした金属疲労のような陥穽を防ぐには、いくつになっても、興味・関心を旺盛に持ち続けることや、自分の周囲にイエスマンではなく、諫言してくれる、信頼できる知己にいてもらうことでしょうか。

勿論、ブレイクスルーを起こすには、その領域の基礎学力は必要ですから、大学で効率的に知見や思考法を身につけつつ、自由な発想も持ち続けるというバランスが大事なのでしょう。皆さんもその人生において、皆さん自身のリーダーであり、信頼のおける仲間との関係が財産です。学生時代の人間関係は、仕事上の利害関係がないので、社会人になった後は貴重な人間関係になります。一生のつき合いになる知己に巡り合うこともしばしばあります。様々な人生経験を積んでいき、充実した大学生時代を過ごしてください。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学して3ヶ月ほどが経過して、入学前に思い描いていたような学生生活をおくることができているのでしょうか。今年度5月8日より、新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまでのいわゆる2類相当から5類感染症に変更となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍においては、三密を避けることが推奨され、人と人との距離感、人との付き合い方、人間関係にも様々な形で影響が及んだように思います。5類感染症に移行することで、個人の選択が尊重されることとなり、人間関係において戸惑われている学生も少なからずいるのではと思います。実りある学生生活を送るためには、心身ともに健康な状態を保つことが重要であり、別な言い方をすると学生生活の一つの目標は、自分自

かつ俯瞰的に捉えた論理的思考の育成が目的とされています。Art（芸術）は広義に芸術、文化、社会、経済、法律、政治、倫理等を含めたLiberal Arts（教養）として捉えることが一般的であり、現在、皆さんが受講している教養教育は極めて重要です。理工学部における専門科目だけでなく、総合大学の利点を生かした教養教育カリキュラムを是非活用して、Liberal Arts（教養）を身に着けてほしいと思います。Liberal Arts（教養）の一つの目的は、自分の頭で論理的かつ定量的に考え、言語化する能力を養うことにあります。

理系の学部として理学部と工学部がありますが、弘前大学ではScience（科学）、Technology（テクノロジー）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の融合教育を目指して、他の教育機関に先駆けて理工学部を設置してい

大学での学びについて

理工学部長

岡崎 雅明

身を健康な状態に保つ術を身につけることにあります。理工学部では3年次後期あるいは4年次から研究室に配属され卒業研究に着手します。研究室では学生の皆さんも1人の自立した研究者として扱われ、研究生活に没頭することになります。研究という創造的な活動に集中するためにも、週末等においてリフレッシュする術を是非、身に着けてください。1人では解決できず、不安に感じるなどありましたら、遠慮なく友人、教職員、保健管理センター等の学内の相談窓口にて相談してみてください。

人工知能あるいはIoTなどの分野における急速な技術革新により、目まぐるしく変化する社会課題に対応するためには、文系あるいは理系という枠組みにとらわれることなく、あらゆる分野における知識と情報を活用して、課題の発見や解決、新しい価値の創造に取り組んでいくことが必要です。このような観点から、科学技術分野における人材育成を目的として、STEAM教育が大学においても推進されています。STEAM教育は、Science（科学）、Technology（テクノロジー）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）の頭文字をとって命名された教育プログラムで、それぞれを独立に扱うのではなく、総合的

ます。実際、科学者が最先端分野において研究を行う際には、自らのフィールドとアプローチが、理学的かあるいは工学的かを意識することはなく、まさに理学・工学融合的に社会の課題解決に向けて、研究を進めていくことが必要です。STEAMにおいてMathematics（数学）が取り上げられていることからわかり、論理的思考を行う上でMathematics（数学）は理工系の分野に関係なく重要であり、現代の読み・書き・そろばんとも言われている「データサイエンス」の重要性にも直結します。

私が弘前大学に着任して14年が経ちますが、着任時から一貫して感じている理工学部の学生の特性は、粘り強く考え抜くことができる「地頭の強さ」と新しい発見に対して心から感動し面白いと感じることができる「素直さ」です。この素晴らしい特性に磨きをかけ、充実した学生生活を皆さんが送ることができる環境を提供できるように、教職員一同努めてまいります。

新入生の皆さん、新生活の期待を胸にしながらも、入学からこれまで忙しい日々だったのではないのでしょうか。新しい環境は、大変なことも多いですけど、飛躍のチャンスでもあります。コロナ禍で制限が多かったフェーズから、感染に注意しながらも制約が解かれる年になりました。高校では思い切りやれない状況があったと思いますが、大学での授業や実習、サークル活動、友人たちとの交流もほとんど制限なくできるようになり、改めて自由であることが大切かを感じているかと思います。これからの大学生活はぜひその時その時を大切にやりたいことをみつけ、挑戦してもらいたいと思います。

大学生になった皆さんには、自分自身のなかに物を見通

思い描いたようにならなくても良いと思います。チャレンジそのものが人を成長させるはずです。皆さんの先輩たちが社会で活躍している姿をたくさん見てきましたが、その先輩たちも学生時代悩みながらも努力して成功や失敗を繰り返していました。その時に大切なのはやはり友人や先輩、後輩、そして家族の存在であったと思います。理系の学部に多いことかもしれませんが、農学生命科学部の場合、ゼミのメンバーや先生たちとのつながりが卒業後も続くことが多いのが一つの特徴です。研究室のメンバーは同じ目標を持つ仲間となりながら、時によりライバルとなり、助けあったり切磋琢磨をするからなのだろうと思います。

今年の春印象的な出来事にはWBC（ワールドベースボー

今の自分を 超えて行こう

農学生命科学部長
東 信行



す眼を育てていただきたいと思います。今年は春の訪れがとても早かったですね。県外から来た方はあまり気にならないかもしれませんが、桜もリンゴの花も例年なく早い時期に咲きそして散りました。生物学を生業としている私は、生物界でミスマッチ（花や虫の出現するタイミングがずれること）が起きているのではないかと気になってしまいます。春の訪れが早かったのは、たまたまではなくやはり地球の温暖化と関係があります。コロナ禍による社会の変化は感じられていると思いますけれど、世界はいろいろな側面で常に変化していて、国際的にはウクライナーロシアの戦争や中国の台頭など先の読めない状況が多々あります。これまでは教科書の中であって、知識として勉強してきた事柄は、これから目の前の現実として考える立場になって行きます。

大学生の4年間はあっという間に過ぎて行きます。一方でその4年間は急速に人間として成長する時期になり、すぐに社会で活躍する一員となります。この4年間の目標の一つに小さいことでも良いので、自分自身の中に一つ自信を持てるものを作れるよう、いろいろなチャレンジしてみてください。未完成でも構わないですし、結果として自分の

ルクラシック）がありましたね。野球にあまり興味がない人も見ていたのではないのでしょうか。私自身が驚いたのは、スターぞろいのチームで、個々が確立しているのではと思っていたところ、決してそうではなくチームとして戦っていたことでした。選手、監督、コーチやスタッフみんなで戦っていることがテレビの画面を通して伝わってきました。個人の能力を高めることにとどまらず、一流であっても皆で目標に向かうことの大切さを改めて教えられた出来事だったと感じています。その陰には本人たちのたくさんの努力と失敗そして感謝が隠れているからこそなのではと想像してしまいます。スター選手も最初からスターだったわけではないですね。今の自分を超えるという作業を繰り返してきた結果なのでしょう。

弘前大学への入学、心から祝福いたします。皆さんの将来に期待しています。

弘前大学 総合教育棟「中庭の春」



今年は早い満開を迎えました
(4月11日撮影)



つい窓の外ばかり眺めてしまいます



芝生まで桜色に (4月16日撮影)



散ってなお心惹きつける桜花



総合教育棟内から中庭への
アプローチには黄色の花房 (5月17日撮影)



5月には緑陰となります
(5月17日撮影)



人文社会科学部
文化創生課程 1年
松金 朋佳



人文社会科学部
社会経営課程 1年
松橋 羅央



人文社会科学部
社会経営課程 1年
村上 遥奈

弘前大学の一員となって

弘前大学に入学して早一ヶ月。絶対に覚えられないと思っていた、講義室の配置、大学近郊の道、地名。それらも段々と覚えてきて、人の適応能力の凄さを実感しています。

大学での講義が始まる時気がかりだったのは、専門度の増す内容についていけるのかということ、そして90分というその講義の長さでした。高校に比べ格段に長い間、集中力を続けさせることが出来るのか、と。しかし、専門性が高まった濃い授業というのはとても楽しいもので、今になってそれは杞憂だったなと強く感じています。

さて、唐突ですが、私は人の心を動かせる人になりたいという願望を常日頃から抱いています。人の心が動かされるものと言えば、綺麗な表現を並べた文章であったり、人の心の奥底に触れた生々しい言葉であったり、多種多様で、決まったものはないでしょう。ですから、このとても貴重な弘前大学での学びの機会を生かし、高校まででは得られなかった、なりたい姿に近づく為の欠片を少しずつ集めていきたいと思っています。

最後に、私が紆余曲折を経つつもこの弘前大学に入学し通うことが出来ているということにありがたい気持ちを述べ、締めさせていただきます。

大学生になって

まだ先だと思っていた受験本番があったという間に過ぎ、つい先日入学式を迎えたと思っていたら入学して1ヶ月も経っていました。まだ大学生活に完全に慣れたわけではありませんが、常に不安に覆われた毎日を過ごしていた4月に比べると1日の生活リズムがだんだんできてきて心も少しは落ち着いた気がします。

大学生になって今までの生活と1番大きく変わったと思うことは身の回りのことをすべて自分が決めて行動し責任を持つようになったことです。高校生までは家に帰ったら親がごはんを作ってくれて、家賃や水道代などは気にもしませんでしたし、学校の時間割も学校側が決めたものに従って授業を受けてきました。ですが大学生は今日何を食べるか、生活費の管理、大学の時間割などあらゆることを自分で決めて行動しなければならなくなりました。私は自分で判断して決めるということが苦手でそういう状況を極力避けて生きてきたので、大学生活が想像していたより何倍も大変だと感じています。ですが甘えたことは言っていないですし大変さを乗り越えた先に楽しさがあると思っているので、自分で決めるということに早く慣れることができるように生活していきたいです。

大学生はまだ始まったばかりでこれからたくさんの新しいものに出会い、触れ、成長することができると思っています。その貴重な経験を無駄にせず積極的に挑戦する4年間にしていきたいです。

弘前大学に入学して

入学して約一ヶ月が経ちました。小学生から大学生になるまでほとんど同じ道を通して通学している私にとって見慣れた街ですが、大学生活は目新しいことばかりで充実した日々を送っています。

大学に入学して、出身や年齢、国籍までもが違いたくさんの人と話す機会がありました。今まで知らなかったことや様々な価値観を知ることができるのがとても楽しいです。大学四年間、サークルやアルバイトなどでも、もっともっとたくさんの出会いがあると思います。その出会いを大切に自分の視野を広げたいと思っています。また、たったの一ヶ月ですが学部専門科目以外にも様々な科目の授業を履修する中で、授業を受けるまではあまり興味がないと感じていても、受けてみると興味が湧いて面白く感じるようになりました。私は、将来やりたいと思う職業がまだ明確に決まっていないです。そのため、興味がないと決めつけるのではなく、何事にも挑戦してみる大学生活にしたいです。

私たちの学年は、高校受験をするのと共にコロナウイルスの感染拡大が起こり、行事も部活動も制限された高校生活だったと言えます。ようやく下火になってきつつある状況に、例年通りの大学生活が送れるのではないかとワクワクしています。

大学生生活のすすめ



人文社会科学部
文化創生課程 3年
中村 一雄

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境にはもう慣れましたでしょうか？皆さんを見かけると2年前の自分を思い出し、とても懐かしく思います。

さて、今回は新入生へのアドバイスということで、稚拙なアドバイスではありますが、2年間過ごした大学生活の中で私なりに考えたことを何点かお伝えしたいと思います。

一つ目は、やりたいことや目標に対して早めに行動に移そうということです。どこかのサークルに参加して友達を沢山つくるでも、何かの資格を取得するでも、何でも良いですが、意外と、機会やタイミングを探っているうちに時間は過ぎてしまいます。何事も早め早めの行動が自分を良い方向へと導いてくれます。

二つ目は、主体的に行動することです。大学はこれまでの生活と比べものにならないくらい自由度の高い所です。その反面、自ら考えて主体的に行動しないと、本当の楽しい大学生活は実現できないと思います。高校生までは親や先生などの助けが多かったと思いますが、大学生からは、自分で考えて行動することを求められる場面が多くなります。

以上のことを意識して過ごしてみてください！皆さんの大学生活が充実して楽しいものになるように願っております。

新入生の皆さんへ



人文社会科学部
社会経営課程 3年
三沢 海優

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活には慣れましたか？講義についていけるか友達ができるかという不安と、高校までとは違う新しいことが始まるという期待で胸がいっぱいだった一年生のころを思い出します。

私から新入生へ伝えたいことは「新しいことに挑戦する」ということです。私は大学生活を2年間過ごしましたが、1年生・2年生の時にやっておけばよかったと思うことがあり後悔しています。学年が上がるごとに忙しくなり、資格の勉強時間が取れなくなったり、留学に行く時間が無くなったりします。経験したいこと、興味をもったことがあれば、1年生のころから始めておくといいと思います。自分の選択や行動次第で、様々な経験を積み視野を広げることが出来ます。学業だけでなく、サークル活動や部活動、アルバイト、旅行など大学生活でしかできないこともあるので、大学生という時間を有意義なものにしてほしいです。

新しいことに挑戦するということは、勇気もいるし不安もあると思いますが、友達、先輩や先生方に頼りながら少しずつ頑張ってください。4年間はあっという間なので、皆さんが楽しく充実した大学生活を送れることを願っています。

大学生でしか得ることのできない経験



人文社会科学部
社会経営課程 3年
中田 匡人

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルスの脅威が徐々に薄れる中、新学期が始まり二ヶ月が経とうとしている頃だと思っています。如何お過ごしでしょうか。本州は、これから本格的な梅雨入りが始まり外に出るのが億劫になるとは思いますが、頑張って学校に通いましょう。

さて、自分が新入生の皆さんに伝えたいことは、たくさんの経験をしてほしいということです。大学に入学したこの二か月間だけでも今まで味わったことのない経験をたくさんしてきたことだと思います。大学を卒業して社会人になった方が口をそろえて言うのが、大学生ほど時間に余裕のある時期はないということです。何も考えずに過ごしているうちに、あっという間に大学の四年間は終わります。自分も今三年生ですが、本当にあっという間でした。

やりたいこと、目標を見つけ、それに全力でぶつかってみてください。そこで得られるものは失敗も含めて、かけがえのないものになります。勉強、遊び、バイト、課外活動、旅行。時間とお金、両方にある程度の余裕が持てる今だからこそしかできないことをたくさん経験して、自分の人生の糧にしていって下さい。



教育学部
学校教育教員養成課程 1年
島山 美玖



教育学部
学校教育教員養成課程 1年
黄金崎 大智



教育学部
養護教諭養成課程 1年
大屋 咲良

弘前大学に入学して

弘前大学に入学してから約1か月が経ちました。大学生活を送っていく上で、広いキャンパスでの移動、長くなった授業時間、また友達作りや授業についていくことができるのかなどといった不安がたくさんありましたが、少しずつ慣れてきている気がします。同じ夢や目標を持つ友人たちと学ぶことができ、とても楽しいです。

私たちは多くの行動制限がかかった高校生活を送りました。そして今、新型コロナウイルス感染症の分類が第5類になったことで、これまでと比べて行動範囲が広くなり、また自由度も増していくと思います。アルバイトやサークル活動など、大学生の今だからできることにたくさん挑戦していきたいです。

今までの学校での授業は与えられたものを解いたり、決められた授業を受けたりするなどの受け身であることが多かったのですが、大学では自分の将来に関係する授業や、興味のある授業を選択するので、自分から積極的に学んでいきたいです。また教養科目では他学部の人と関わるため、視野を広げることができると思います。目標である小学校教員を目指し、多くの知識と経験を積み、充実した大学生活にできるように頑張っていきたいです。

「抱負」

津軽の晩春を告げる花筏が早々と弘前公園の外堀から姿を消し、忙しくも初夏を感じさせる林檎の花々が青森を彩っている今日この頃、弘前大学での日々が少しずつではありますが身近なものへと変化している様に感じます。

さて、大学生となった私には近頃日に何度も考える事があります。それは私が「何者」でありたいかという事です。もちろん、教育学部に所属しているからには教員を目指しているのですが、この厳しく混沌とした現代社会を自分の脚で歩き抜いていくためには、この四年間の中で内なる自己を見つめ直し、自身が持って生まれたものを探り、引き出し、発展させ、揺るぎない自己を確立させていく必要があると考えています。誰かにとって必要不可欠で、自分の芯をしっかりと持っている、そんな人物に成っていく事が私の現在の目標ですが、弘前大学を卒業するまでには、「自分とは何か」その答えを明確に導き出したいと考えています。また、自身の内面だけでなく他者との関係性を重視することも実りある大学生活を送るための大切な要素だと感じており、先生や先輩方、学友や地域の方々との交流の中から自分の中には無かった考え方や技術を学ぶことで更なる成長に繋げていきたいと思っています。

この先の四年間、美しく聳え立つ巖城の下で大学生活を送れることに感謝し、大学生としての日々を充実させていきたいです。

弘前大学に入学して

弘前大学に入学させていただき、1ヶ月ほどが過ぎました。入学当初は学業や人間関係に対する期待と不安が入り混ざっていましたが、教授をはじめとしてサークルの先輩、同じ課程の友達、教養科目の授業で知り合った友達、同じ寮に住む同級生など、周りにいる皆様の優しさのおかげで、少しずつ大学生活に慣れてきているような気がしています。まだまだ分からないことも多いですが、一日一日を大事にし、成長していきたいです。

大学生になって、授業を自分で選べたり時間や食事などに関して誰かに咎められることも無くなったりなど自由になんてできることが増えた反面、自分自身の全ての行動に責任を問われ、何があっても自業自得だということになります。教育学部に所属している人は教員を目指している人が大半で、教員は子供たちの責任も負っています。また私が目指している養護教諭という職業は特に子供の健康に関して責任を負うことになり、子供の命に対しても養護教諭が責任を持つことになります。この大学生活でより強い責任感を養っていきたいです。弘前大学で学ぶ4年間で養護教諭としてだけでなく人としても成長できるようこれから頑張っていきます。

自己の実現



教育学部
学校教育教員養成課程 3年
西村 心那

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
辛い受験とコロナ禍で行動を制限された皆さんにとって、迎えたキャンパスライフはとても楽しいものになっているのではないのでしょうか。そして同時にコロナの規制が緩和する中で視野も広がってきていると思います。

大学生はとにかく自由です。自由といっても自分の選択の連続です。遊ぶことももちろんですが、私は自由（選択の連続）だからこそ、進みたい道も学ぶことも自ら探さないといけない場であると3年生になり感じています。自分の好きや得手を探ってみるのも一つの方法で、小さな積み重ねが「私」自身を知る手がかりになることもあります。自分の好きにアンテナを張り、気になるものがあれば挑戦をし、失敗や違和感があれば、どこがいけなかったのかを分析し、また挑戦をする。こうして道を探すことの繰り返しだと思います。今の自分には何があって、何が足りないのか。学生生活の中で見つけ、探求し同時にアルバイトや部活、サークル、イベントなど楽しい「今しかないこの時間」を有意義に使い、コロナ禍で行動を制限されてきた分を取り戻すぐらいの気持ちでキャンパスライフを味わってほしいです。共に頑張っていきましょう。

最後に俳優の及川光博さんの言葉で締めたいと思います。
「明日への扉は、自動じゃない。」

自分の想いを信じて



教育学部
学校教育教員養成課程 3年
青山 風優子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。授業には慣れてきたでしょうか。所属するサークルは決まったでしょうか。もしかしたらアルバイトを始めた人もいるかもしれません。

大学はできることの幅がとても広くて、今までにはない経験がたくさんできる場所だと私は感じています。何かを始めるのはとても勇気がいりますが、大学生だからこそ始めやすいことがたくさんあります。しかし自分から探して飛び込まないとなにも起こらずに過ぎ去ってしまうのもまた大学の特徴です。みなさんにはぜひ、やりたいことにたくさん挑戦してほしいです。

やりたいことをたくさんやるために大切なことは優先順位を自分で決めておくことだと私は考えています。その優先順位はいつも同じでなくても良いです。時に応じて「今はこれに1番力を入れる、2番目にこれ」と決めておくことで無理をしすぎないことにもつながります。心と体の健康を第一にして、たくさんのやりたいことに挑戦してほしいなと思っています。

ここまで私の思う豊かな大学生活を書いてきました。ですがこれはほんの一例だろうと思います。みなさん一人一人が意味のある大学生活とは何かを本気で考え、実行することが一番大切です。素敵な大学生活になるよう、応援しています。

“今しかできないこと”を



教育学部
養護教諭養成課程 3年
小林 楓歌

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新生活に少しずつ慣れてきた頃でしょうか。2年前の自分を思い返すと、「友達はあるだろうか」「授業についていけるのか」など、入学当初は不安でいっぱいだったことを思い出します。しかし、そんな気持ちはいつの間にかなくなり、学業はもちろん、アルバイトやサークルなど、忙しくも充実した日々を過ごしています。

私がみなさんに伝えたいのは、“今しかできないこと”を楽しんで欲しいということです。大学生活は想像以上にあっという間に過ぎてしまいます。友達と沢山遊んだり、サークルやアルバイト、やりたいことに挑戦したりと、新しい自分を見つける一歩を踏み出して欲しいなと思います。高校生までの私は、新しいことに挑戦するのが苦手でした。しかし、大学生活を過ごしていくうちに、最初の一歩を踏み出すことで世界が広がるということを学びました。コミュニティが広がることで沢山の人と関わることができたり、様々な経験ができたりと、充実した時間を過ごすことができると思います。

多くのことを学び、経験し、いろいろな人と出会い、素敵な思い出であふれる大学生活になるよう、心から願っております。



医学部医学科 1年
地割 萌々子



医学部医学科 1年
杉澤 元斗



医学部医学科 1年
杉山 耕大

弘前大学に入学して

入学から着実に歩みを進めた大学生活は、あっという間に約1ヶ月の月日が経ちました。ようやく大学生活にも少しずつ余裕が生まれてきたように感じます。

私が弘前大学に来て最初に感じたことは本当に様々な価値観を持った人たちがいるということです。日本各地からきた人、留学経験がある人、高い志を持つ人など、自分にはないものをたくさん持っている素晴らしい同級生や先輩たちとの出会いは刺激的で、今まで自分が小さな世界で生きていたことをひしひしと感じています。特に臨床医学入門という授業で行われた「自己紹介と理想の医師像」のスピーチを聞いて、一人一人に異なる過去があり、譲れない想いや決意があることを知りました。これからの6年間で彼らと共に成長していけることを嬉しく思います。

最後に、弘前大学での6年間で医師になるための知識や技術を学ぶと同時に、人として大きく成長したいと考えています。そのために勉強だけではなく部活やアルバイト、さらには旅行など、自分が興味を持ち、やりたいと思ったことに積極的に挑戦していきたいです。そして学友と胸を張って卒業を迎えられるように、支え合いながら充実した大学生活を送りたいと強く思っています。

文武両道

地元の東京を旅立ち長い青森での生活が始まって早一ヶ月、周りの人々にも助けられ、自分としては良いスタートが切れたのではないかと感じている今日この頃でございます。

私は長い間こ弘前大学で学ぶことを夢に見てきました。というのも医学の勉強はもちろん、部活動を通して充実した6年を過ごしたかったからです。私は中高6年間母校のラグビー部に所属し、青春のすべてをそれに捧げてきました。これから先の人生を考えたとき、おそらくこの大学生である間自分が選手としてプレーできる最後の期間であると考え、文武両道に励むことを心に決めました。

この競技からは医師として成長する上で大切なものを多く得られると考えます。体力、精神力、忍耐力などはもちろんですが、私が何よりも大事だと思うことはいかにチームがまとまって一つの目標へと進んでいけるかということです。ラグビーは一人一人がみんなのために体を張るような「究極のチームスポーツ」であり、私はここでの経験が現場におけるチーム医療、さらには青森県での多職種連携による地域医療で必ず役立つと信じております。そしてこの6年間、自分を取り巻く環境に感謝し、ここでの学びや成長を日々実感できるよう精進していきたいと思っています。

弘前で学ぶということ

入学当初は初めての1人暮らしで浮き足立っていた私ですが、約1カ月が経ってだいぶ落ち着いてきたように思います。

入学してから、さまざまなバックグラウンドを持つ方たちと知り合うことができました。私は青森市出身なのですが、初めて話す方との会話で私の津軽弁があまり伝わらないことがあり、そのたびに「高校までとは違い、大学は多様性の場なのだ」とひしひしと実感しています。

私は医学部医学科での6年間を通して、医学の勉強はもちろんのこと、いろいろなことに取り組みたいと考えています。まず、受験勉強で体がなまってしまったので、定期的に運動する習慣をつけたいです。また、私は時事問題に興味があるので、幅広い教養を身につけ世の中で起きていることをより深く理解できるようにしたいと思います。そして、いざ医師になったときにチーム医療を実践できるよう、コミュニケーション能力なども磨きたいです。

私は弘前大学で過ごす時間を大切にし、毎日1歩ずつでも前進できるよう努めたいです。自然豊かで文化の薫り高い、日本一の桜のまち「弘前」で学べることに感謝し、そして誇りに思いながら、有意義な大学生活を過ごしたいと思っています。同学年のみなさん、先輩方、そして先生方、どうぞよろしくお願いいたします。

楽しい大学生活を！



医学部医学科 3年
志田 一真

新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。これから充実した大学生活をこの弘前の地で送れるようにと願うばかりです。

他の先輩方が真面目な話をしてくれると思うので私はとにかく青森・弘前という地を思う存分に満喫してほしいということを伝えさせていただきます。

皆さんは何かの縁でこの青森・弘前の地に来たわけですから。この素晴らしい場所を満喫せずに卒業するのは勿体無いと思います。まず弘前には四季の変わりゆく風景があります。大学の近くにある弘前公園は春には皆さんももう見たであろう桜、秋には紅葉、冬には雪とさまざまな顔を見せてくれます。さらに、夏にはねぶた祭りや全ての季節で素晴らしいイベントがあります。ねぶた祭り以外にも青森県には青森市のねぶた祭り、五所川原市の立佞武多祭りがあり、1年を通してこんなにも楽しませてくれる場所なのです。また、美味しい食事も豊富です。青森県には新鮮な海産物やラーメン、郷土料理などたくさんの美味しいものがあります。自分自身のお気に入りのお店や行きたい店などを探してみるのもとても楽しいです。

ぜひ皆さんも青森・弘前にいる間にこのようなイベントや食事を楽しんで、より良い大学生活を送ってほしいです。

新入生の皆さんへ



医学部医学科 3年
畠山 紗希

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。学生生活に慣れましたか。

私は社会人経験を経て学士編入で弘前大学に入学しました。2度目の大学生活を送る中で感じたことをお話します。皆さんに覚えておいていただきたいことが2つあります。

1つ目は、失敗を恐れないこと。興味があることには積極的に参加してみてください。やらなかった後悔の方が、実際行動して失敗した時の後悔より必ず大きくなります。たとえ失敗したとしても、10年後には必ずいい思い出となっています。興味のあることは躊躇せずチャレンジして、勉強、趣味、バイト全て楽しんでください。

2つ目は、主体的に勉強をすること。医学部での勉強は暗記が多くて大変ですが、単に暗記するのではなく、「何故こうなるの?」と必ず考えながら勉強しましょう。わからないことがあれば、先生方は丁寧に教えてくださいます。好奇心を持って勉強をすれば、案外楽しめるかもしれません。このことは勉強が大変になる2年生になったときに特に思い出していただきたいと思います。1年生は比較的ゆっくりと時間を過ごせるとしますので、自分にあった勉強法を見つけてください。

「制限」は少なく、「自由」が多いのが大学生です



医学部医学科 4年
飯尾 政充

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

近頃は、コロナに関する規制も緩和され始め、元の生活に戻りつつありますね。

皆さんの中には、これから始まる“大学生活”というものに期待する人もいれば、一方で不安を抱かれる人もいると思います。私は大学と高校の大きな違いは、「自由度の高さ」だと実感しています。勉強、交友関係、部活やサークル、アルバイトなど、こんなにも豊富な選択肢が存在するのは、大学生の特権ではないでしょうか。もし興味のあることに出会えたら、是非突き進んでみてください。その内容が勉強であれば、研究室や学会を覗きに行くのもお勧めです。私は3年前期より医学部の研究室で勉強させて頂き、先生方のご支援を賜りながら、先日学会にてポスター発表を行うことが出来ました。全国から集まった学生との出会いは、とても貴重な経験となりました。そして弘前には桜、ねぶた祭り、紅葉、ウィンタースポーツなど四季折々の魅力が数多く存在しますので、是非足を運んでみてくださいね。皆さん、大学はとにかく自由です。迷ったら行動してみて、実りのある生活を送ってください。沢山の素敵な出会いが、皆さんを待っていると思います！

大学に入学して

弘前大学の一員となった入学式から早くも1ヶ月が過ぎ、大学での生活にも慣れてきたと感じるようになりました。良い友達とも出会い、楽しく充実した大学生活を送っています。

私ははじめ大学で勉強していくことに大きな不安がありましたが、授業を受けていくにつれて知識を身につけ、徐々に慣れていくことができてきたと感じています。せっかくここ総合大学の弘前大学で学ぶことができるので、専門の知識はもちろんのこと、教養教育科目で得られるような幅広い知識を得て、将来は多方面から物事を考え、処理できるような放射線技師になりたいと考えています。

また、アルバイトなどを通じて交流を広げ様々な経験を積んでいきたいと考えています。

さらに私は旅行が好きなのでアルバイトをしてそのお金を溜めながら、自由な時間を最大限に活用し沢山の知見を広げていきたいです。

これから迎える4年間は初めての経験も多く、沢山の壁にぶつかるかもしれません。また、大学の4年間はあっという間に過ぎていってしまうと思います。しかし、何事にも挑戦してみるという気持ちを大切に、有意義かつ今後の人生の糧となるような実りあふれる大学生活にしていきたいです。

医学部保健学科 放射線技術科学専攻 1年 佐藤 園和



医学部保健学科
検査技術科学専攻 1年
工藤 姫乃

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して約1ヶ月が経ちました。時が経つのは本当に早いものだというのを日々痛感しています。何もかもが新しい環境になり多くの不安を抱えていましたが、この1ヶ月間の中で大学での講義や一人暮らしなど、大学生としての基本的な生活サイクルに少しずつですが慣れていくことができています。

この1ヶ月間で改めて実感したことがあります。それは、私が弘前大学に合格でき、充実した生活ができていたのは、家族や友人、先生方や先輩方、推しなど沢山の皆様のおかげだということです。本当に感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れず、これらの方達への恩返しの意も含めて弘前大学で頑張りたいです。

私は将来、病気の早期発見、早期治療に貢献できる臨床検査技師になりたいと思い、弘前大学を志望しました。今は、その将来の目標に確実に一歩近づいたという感覚を持っていることをとても嬉しく思っています。弘前大学の学生として過ごす4年間は長いようであっという間に過ぎてしまうと思います。この限られた貴重な時間を充実した楽しいものにするために、臨床検査技師の国家試験合格に向けた勉強はもちろん、様々なことに挑戦し、沢山の経験をしたいです。



医学部保健学科
理学療法科学専攻 1年
兼平 あかり

弘前大学の一員として

弘前大学に入学してから約1ヶ月が経ち、少しずつこの新生活に慣れてきたなというところです。大学に入学するまではずっと期待と共に不安を抱えていました。授業についていけるのか、友達はできるのか、一人暮らしがしっかりできるのか、かなり不安で寝つきも悪くなるほどでした。しかし今となっては同じ専攻の友人や先輩方、他の学部の方々とも仲良くなり、不安がかなり解消されました。

今までとは違い、自分で行動しなければいけないことやお金の管理など実家暮らしの頃とは比にならないほど責任感が必要になりました。大学生になるまではほとんどの事を親に任せてしまっていたため家事から必要書類の記入など急に慣れないことに取り組む必要が出てきたためとても大変でした。そんな一人暮らしの悩みも自分なりに少しずつ解決していき、今ではある程度スムーズに行う事が可能になりました。

今後はしっかりと知識だけでなく、礼儀や社会の常識を身につけていく事で弘大生の一員、社会の一員として活動していきたいと考えています。自分の将来像を考え、それを実現できるよう周囲の人と支え合いながら忙しく過ごせる4年という短い期間を充実させて過ごせるよう頑張ります。



医学部保健学科
看護学専攻 4年
工藤 玲亜

新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活には少しずつ慣れてきましたでしょうか。

私が今まで大学生活を送ってきた中で、たくさんの学びを得ることができました。特に、様々な人との関わりについてです。大学は高校までとは異なり、様々な地域からたくさんの人が集まっています。自分の当たり前と、人との当たり前は異なるということを、3年経った今でも感じるものがたくさんあります。そのおかげで、色々な価値観を学ぶことができました。ぜひ、周りの方々とたくさんのコミュニケーションを通して、多様性を感じてみてください。そのためには、自分から積極的にコミュニティに参加するというのが大切だと思います。私はコロナ禍での入学だったため、コミュニティに参加する機会が少なく、自分も消極的であったなど少し後悔しています。ぜひ、アルバイトでも、サークルや部活動でも、人間関係を広げられる機会があったら積極的に関わってみて欲しいと思います。

大学生活は長いようでとてもあっという間です。皆さんにとって楽しく、有意義な大学生活になるよう、願っています。



医学部保健学科
作業療法学専攻 3年
狩野 未来

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学には慣れてきたでしょうか。皆さんの大学生活が有意義なものとなるように、私からは大学で過ごしていく上でやっておくべきことをお話します。

大学は、何をどう学ぶか、日々をどう過ごすか、高校までと比べるととても自由度が高いです。私が皆さんに大切にしたいのは、何事にも好奇心をもって日々を過ごすことです。勉強でも遊びでも何でも、やってみたくと思ったことはあまり深く考えずに挑戦してみると良いと思います。

また、人脈を広げ、色々な人と関わることもとても大切です。サークル・部活動やアルバイトなどを通して、他学部・他専攻の人や自分とは異なる年齢・性別の人と関わることで、様々な価値観に触れることができます。そこで知ることができた様々な価値観は、自分の学んでいる分野に生かすことができますし、自分自身の成長に大いに繋がります。

大学生活の4年間、または6年間は、楽しいことだけではなく、時には辛いこともあるかと思いますが、どんな経験も絶対に将来に生きてくるはず。新入生の皆さんが、有意義な大学生活を送れることを願っています。これから一緒に頑張りましょう！



医学部
心理支援科学科 3年
草薙 夏輝

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、2か月ほど遅くなりましたが、ご入学おめでとうございます。

自分より2つ下の学年には、どんな方たちがいらっしゃるのだろうか？と考えていたところ、「もしかして、コロナの拡大とほぼ同時に、高校に入学した学年ではないか？」と気づきました。この文章を読んでくださっている方の中には、高校生としての3年間と、新型コロナウイルス感染症の流行がぶつかってしまい、思うような高校生活を送れなかったという方がいらっしゃるかもしれません。私自身は、高校3年生の春に、全国一斉休校を経験した学年です。休校が明けたのちも、部活動のコンクールが中止になるなど、イレギュラーな事態が相次ぎました。コロナが1年間重なっただけでもモヤモヤするのに、それを何年分も経験された方々はどんな思いをされたのか、想像が追いつきません。

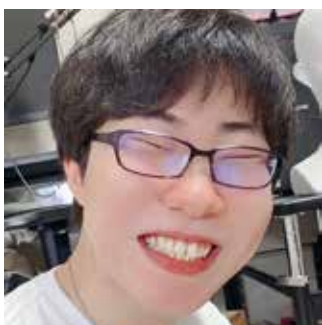
新入生の皆さんには、今までできなかったことを取り返す勢いで、大学生活を楽しんでもらえたらと思います。正直なところ、講義の予習・復習や課題など、やるべきことはまあまあ多いです。しかし、やりたいことを実現する計画力や経済力も、少しずつ身についてきます。大学で過ごす数年間は、「やろうと思えば何でもできる時間」だと思います。皆さんの大学生活が、実り多いものになることを願っています。



理工学部
数物科学科 1年
木村 凌



理工学部
機械科学科 1年
前本 莉奈



理工学部
自然エネルギー学科 1年
青木 裕哉

弘前での新生活がはじまって

弘前大学に入学して、早一ヶ月。勉学のほかに料理や掃除、洗濯、新しいことだらけで何度も失敗しましたが、少しずつこの生活にも慣れてきました。今まで色んな人に助けられ、支えられてきたことを改めて実感しています。

私は弘前大学に受験するぎりぎりまで志望校に悩んでいました。それも弘前大学とは全く違う、音楽系の大学と。

私は高校に入学してから音楽の道に進むために努力してきました。遠いところまでレッスンに通い、ピアノを習い、楽典を勉強し、歌を練習しました。それなのに、その努力を踏みにじって、私は全く方向性の違う理系の大学へと進みました。

今でもここに来るのが正解だったのか、それとも道内に残るのが正解だったのか、ふと考えることがあります。

しかし、最近になって少しずつ弘前に来てよかったと思いはじめました。

大学には友人も知り合いも少ないです。それに寂しさを感じることもあります。しかし裏を返せば、たくさんの新たな出会いがあるということです。

私にとって、今の選択が正解なのかどうかはわかりません。それでも、人生一度きりの大学生活を楽しみながら、知見を広げ、悔いの残らない充実した四年間にしたいと思います。

弘前大学でどう過ごすか

弘前大学に入学して早一ヶ月。一人暮らしも徐々に慣れ、入学前は「友達できるかなあ」と心配していた私も、今ではたくさんの友達に囲まれて楽しく学校生活を送ることができています。

良い先輩にも巡り会えました。その先輩は私に進むべき道を教えてくれたり、生活においても勉強においてもサポートしてくださっています。

その先輩曰く、「合格はゴールではない、スタートにすぎない。ここから大学で君がどう行動するかによってその後の人生大きく変わるよ。ここで何かしら頑張ったら将来きっと役に立つ。勉強でもバイトでもサークルでもいい。何か一つ打ち込めるものを作れ。」と。

その先輩は研究を頑張っていて、先輩を見習い私も頑張ろうと思い、先輩に紹介していただいた団体にゼミを立てようと今奮闘しています。

しばしば「勉強とサークルとバイトの両立は難しい」と言われますが、私はそうは思いません。思うに、「勉強もサークルもバイトも全て完璧にこなす」のが難しいのでしょう。「完璧」を求めるあまり自分を壊してしまうこともあると思います。私は完璧を求めすぎてしまう癖がありますので、気をつけながらたった四年しかない大学生活を、楽しみたいと思います！

自由な生活が始まった

早くも入学式から1ヶ月が経ち、少しずつ講義や課外活動にも慣れを感じるようになりました。実家にいた頃と違い、時間割・食事・家事等、生活のことをほとんど自分で決定し、日々を過ごしています。

この原稿を書いているのは、ちょうど髪を染めたばかりの私です。そう、大学生は髪を染められます。身だしなみや行動が比較的自由になります。ですがその自由には責任を伴うことを覚えておかねばなりません。自由になって、友達と遊びに行くことも買い物をすることも増えましたが、お金はすぐ溶けます。お金がないのでバイトを始めると、恐らく時間がキツくなると思います。ですがそこで、自分が楽しいと、充実していると思えるように調整していくのが大事だと思います。

また、私はダンスのサークルに入りましたが、ダンスでは個人の振り付けもですが全体に合わせた動きということも大切になってきます。講義でも、理工学部では学年が上がるとグループでの実験なども増えると聞きました。大学は自主的に学ぶ場であり、同時に大人数によるプロジェクトの進行など、社会に出るための演習もできる場だと私は考えています。

これから大学生活の4年間、自分がどのような生活をして、どのような力を得ることができるのかがとても楽しみです。学業、趣味、バイト、サークル。自分の納得できるまで極めていこうと思います。

新入生のみなさんへ



理工学部
物質創成化学科 3年
古谷 華暖

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学の授業や新生活には慣れてきたでしょうか。私は入学してから今までを通して気づいた事があります。それは、自由だからこそ自分次第でどのような4年間になるかが全く変わってしまうという事です。そこで、大学での生活を充実したものにするために、二点お伝えしたい事があります。

1つ目は積極性です。大学には多様な人がいますが、この多様さはそれぞれの人が色々な選択をした事によるものであり、何も考えずに過ごしていると、4年間で中身の無いものになってしまいます。今年は新型コロナウイルスによる行動の制限が緩和され、趣味や旅行もしやすくなりました。自分が好きなことや挑戦したいことを思い浮かべ、一つ一つ実現していくと良いと思います。

2つ目は責任感です。大学生になり、自由にできることが増えたからこそ責任が伴うことも増えました。バイトやサークルでは社会と関わる機会が多く、自分の行動が他人に思わぬ影響が出る事もあります。一人一人が大人として責任ある行動をしなければいけません。

責任感を持ち積極的に行動していく事で、皆さんの大学生活がより充実したものになることを願っています。

不安なことだらけだけど...



理工学部
地球環境防災学科 2年
呉 真明

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大学生活が始まり、初めての一人暮らしや新しい環境に少しずつ慣れてきた頃でしょうか。今の時期不安なことがたくさんあると思います。そんなとき僕は「好き」を増やすことを大事にしています。一人暮らしはこんな所が好きだや、弘前のこんな所が好きだなど色々な場面で好きを増やしているうちに、今の生活が以前より楽しく好きになっていると思います。

大学生活が1年たった今の僕はと言うと、将来どんな仕事がしたいのかと考えることがあります。そんな時ある本に、そう言ったときには余裕をもつことが大事であるとありました。それはたくさんの事を体験して、選択の幅を増やすことだと僕は思っています。大学で専門分野を勉強するたび、やってみると意外と面白いと思える分野を発見出来、バイトでは人と関わるのが苦手で飲食業は嫌だと思っていましたが、宴会や婚礼のスタッフをしてみても楽しくやりがいのある仕事であることに気づくことが出来ました。将来の選択肢は意外な所にあつたりすると思っています。そのためには何事も1回体験してみてください、新たな発見があると思います。

新入生のみなさんへ



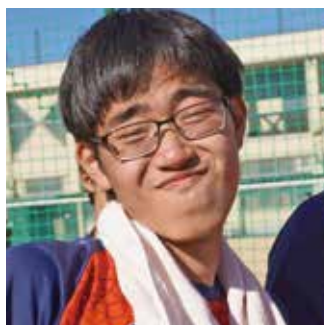
理工学部
電子情報工学科 4年
三ツ橋 多紡

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい環境での生活が始まりましたね。初めは不安や緊張を感じることもあるかもしれませんが、周りの人や先輩たちがサポートしてくれますので、一緒に充実した大学生活を送りましょう。

さて、大学生活についてですが、大学の授業は、ただ単位を取るためだけではなく、将来の自分を支えるための知識を習得できる貴重な機会です。自分が学びたいことを見つけ、授業や研究に真剣に取り組むことで自分自身を磨いていってください。

また、大学では、授業や課題だけでなく、サークルや部活に参加することも大切です。5月からはコロナによる制限が緩和され、さらに活動が活発になってくると思います。ぜひ、自分の興味や将来の夢に合った部活やサークルを探し、積極的に参加して友達や先輩と交流を深めてください。他の人と交流を深めることで、より自分自身への理解が深まり、世の中のことを知る良いきっかけになると思います。

大学生になると今までよりも自分で使える自由な時間が増えます。自分が好きなことを深めたり、新たな趣味やアルバイトに挑戦したりできる良い機会です。ぜひ、いろいろなことに挑戦し、自分自身を成長させる素晴らしい大学生活を送ってください。



農学生命科学部
生物学科 1年
安部 龍司

大学生

柔らかな日差しと共に新たな生命が芽吹き始める季節となりました。自然の恩恵を存分に享受することの出来る弘前大学に入学できたことを嬉しく思います。

入学と共に始めた一人暮らしは一月も経つと慣れ始め、生活に若干の余裕が生まれてきたため、部屋中を植物で一杯にしたいといったかねてからの夢に向けて少しずつ歩みを進めています。

私は大学生活を送る中で、新たな発見を大切にしていこうと考えています。広島県から来た私にとって、気候が異なり自然が大変豊かな青森県は新たな発見の宝庫です。畦道を散策した際、足元に広がる草本、聴こえてくる鳥の囀り、風に乗って来る匂い、その全てに私の知らないパーツが組み込まれていました。春のひと時を過ごしたただけなのにも関わらず沢山の新たな発見に巡り合うことが出来たため、四季折々の新たな発見に出会えることを今から楽しみにしています。そして、数々の出会いの中からもっと知りたい、深く学びたい、と思える事柄を見つけ出すのが現在の私の目標です。

目標達成のためにも新しく出来た学友と共に野山を駆け巡り、ここでしか出来ない経験を沢山重ね、充実した大学生活を送っていききたいです。



農学生命科学部
分子生命科学科 1年
根津 結季

弘前大学の1員として

入学しておよそひと月が経ち、だんだんと、大学生がどんなものなのか、その輪郭を捉え始めたように思います。大学生になって、何がしたいのか。受験勉強を続ける中で、学問の探求のみならず、新たな人間関係の構築、一人暮らし、サークル活動、海外留学など、いろいろな理想を描いてきました。

春になり、受験勉強からの解放や、コロナ禍での行動制限が大幅に緩和されたことに加え、新たに始まった一人暮らしで、今までにない自由を謳歌しています。しかし、自由な時間が増えるということとは、楽しみであると同時に自己責任の部分が増えるということでもあります。私にとって大学生活は、自分の進む道を自らの手で切り拓いていく第一歩だと考えています。だからこそ、私たちは大学内外での行動を常に意識していく必要があると思います。

大学生活に答えはありませんが、大学生活を楽しむ気持ちと自己責任である緊張感のバランスを保ちながら、できる限り充実した時間を過ごせるようにしていきたいと考えています。また、弘大生はこうあるべきだ、という明確な定義がないからこそ、日々の活動に責任を持ち、節度ある行動をしていくことを心掛けていきたいと思っています。

大学生活頑張ります

弘前大学に入学して一か月がたちました。地元から離れ始まった下宿生活も、大家さんや先輩方の力をお借りしながらようやく安定してきたところです。大学生活が始まるまで不安でいっぱいでしたが、新しい友人もでき、講義やサークル活動等毎日充実した時間を送っています。

私が大学生になって感じたことは何もかもが新しく新鮮だということです。下宿生活や高校に比べ大きくやり方が変わった勉強、そして知らない土地弘前、どれも新鮮でワクワクしました。特に勉強の部分では、自由に決めることができる場所が多いので自分が学びたい授業を入れて自分の好きなことを学ぶことができそれがとても楽しいです。休日は、自転車で弘前を探索しています。弘前の観光地や、おいしい食事など毎回新しい発見があって面白いです。しかし、何をやるにしても自己責任です。そのことを心掛けて、毎日自分の中で深く考えてから行動するようにしています。

たくさん勉強して大学生になることができました。ですがここがゴールではなくスタートです。自分が将来なりたいと考えている農業土木技術者に向かって、一日一日を大切に弘前大学での四年間を頑張っていきたいと思っています。

農学生命科学部 地域環境工学科 1年 鈴木 紫雲



農学生命科学部
分子生命科学科 4年
齊藤 祐伽

あくまでも、自分

新入生の皆さん、こんにちは、はじめまして。

人生が大きく左右されるような出来事が身に降りかかったり、重量感ある決断を迫られたりする大学生活では、疲れ果ててしまうこともあるかもしれません。そのときは一旦休憩。一度立ち止まってみるというのはとても難しく歯がゆい。けれども、足を止めてみることで、自分自身を縛り付け過ぎていたことに気づくかもしれません。それは必要な休みで、とても重要な時間だと思うんです。

ときどき自分を励ましたり認めてあげたりしないと、当然全く違う人生を歩む他人との比較ばかりして自分の向かう方向を見失い、方向性の違いによる解散ってやつが自分のなかで起こりかねません。

自分自身は必ず自分を認めてくれる存在にいるということを忘れてしまうと、人は、たちまち取り返すつかない状態に陥る危険性をはらみ始めます。そうなる前に、どうか適度に心を休めて、自分を励まして頑張りを認めて、世間一般のじゃなくて自分の幸せや理想って何なのか考えてみる…そうすれば、他人との無駄な争いをせずに済むかもしれません。頑張りを絶対認めてくれる確たる存在がいつも自分の心にいるというのは、生きていく上でこれ以上無いほど心強いことです。

どうか気に病みすぎず自分を大切に、あなたの（辛いことも全部ひっくるめて）最高に幸せな大学生活をお送りくだされば幸いです。



農学生命科学部
食料資源学科 4年
泉亭 奏良

「自分から」を成長点に

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新たな環境での学校生活がスタートしましたが、いかがお過ごしでしょうか。私も3年前の4月、地元を離れ、ここ弘前大学に入学しました。華の大学生活を送るぞ!と意気込み期待を膨らませていたことを今でも覚えています。

突然ですが、皆さんは今達成したい「目標」はありますか?「なんとなく」「とりあえず」これらの言葉を多用していた3年前の私は、何の目標も持たないままかなりの時間を過ごしてしまいました。大学生活は、学業も勿論大切ですが、それに加え、アルバイトを始める、サークルに入る、など自分から積極的に何か行動を起こすとより充実したものになると思います。そうすることで新たな自分に気付くかもしれません。敷かれたレールの上に行くのではなく、時に考え、立ち止まり、そうして自ら道を開拓し、突き進んでいくことが自身の大きな成長に繋がると思います。自分から、が成長点になります。大学生活は、まだまだ人生の一通過点にしか過ぎません。自分から踏み出す勇気を持ち、自分探しの旅をしてみてください。そうして是非皆さんも、悔いのない素敵な大学生活を送ってください。



農学生命科学部
国際園芸農学科 4年
池田 士侑

好き勝手に生きてみて

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。などという挨拶はもう他の方がされていると思うので、割愛させていただきます。

さて、大学での生活は、これまでの人生と比べてどのように違いますか?私は可処分時間が大幅に増えたというのが実感になります。確かにひとり暮らしを始めた自分にとっては、電車通学などがなくなり、解放感を一身に受けながら過ごしてきましたので。

ここで過ごした時間は、かけがえのないものと言って差し支えません。三年時で2日間の仕事体験をした話になるのですが、朝早くから仕事が始まって、終わったら夕食と寝ることしかなくなってしまうような、本当に一日中に遊べる時間というのがなかったからです。なので大学生の内に、やってみたいと思ったことを、気合いを入れて、主体的にやりきって下さい。

何をすればいいかわからない、そういう人は、森見登美彦氏の小説を読み、お試してもいいので恋愛をするのがいいでしょう。愛すべき誰かのためなら、嫌でも真剣になれると思いますので。

それでもうまくいかないのが現実でしょう。だからこそ、こんな駄文を最後まで読んで下さったアナタに、いいことがありますように。



海外だより

海外留学で見たこと感じたこと

中国文化大学での留学生活

農学生命科学部 国際園芸農学科 4年 平山賢太郎



しみという期待で胸をいっぱい膨らませていました。

では、実際に留学生活を通しての経験だったり思うことについて紹介していこうと思います。

私が留学生活を送っている中国文化大学は、台北の陽明山という山の上にある大学で、台湾国内でもっとも標高の高い位置にある大学なんだそうです。ゆえに学校周辺は大自然の中という雰囲気、リスや野良犬、青森県では見たことのない虫だったり、猿の家族などを見ることができます。気候に関しても言えば、台風レベルの雨や風に見舞われることも少なくありませんし、台北の街に比べて気温が低く、湿気の影響もあり青森県とはまた異なった寒さを感じます。留学生活を通して最も辛く感じたことは、まさにこの天気でした(笑)。また、どこかへ遊びに出かけるとなると、移動手段はバスしかなく、そのたび30分から1時間ほど荒い運転に耐えなければならず、それも不便

に感じてます。しかしながら悪いことばかりではありません。それは校内から見える夕焼けや台北の夜景がとても綺麗なことです。夜景を見ながら友達とおしゃべりしている時間はとても幸せな時間です。



クラスの様子について、クラスメイトには、フランス人やドイツ人など欧州の子が多く、韓国人や日本人はそれに比べて少なく、大体欧州7:アジア3くらいです。どの国の子もみんな日本人や日本文化について興味を持っていたので、すぐに打ち解けて仲良くなることができました。そんな外国人との会話は、台湾に来た当初は英語を使った会話がメインでしたが、日を追うごとに中国語を使った会話が多くなりました。時々中国語が通じなかったり、うまく自分の言いたいことが説明できなかったりすると、英語で言い換えたりして意思疎通を図っていました。

私が選択している授業内容について

私は、台湾の中国文化大学に交換留学生として滞在しています。約7ヶ月過ごしてきた留生活の様子を報告しようと思います。まずはじめに、台湾渡航前のことから述べていきたいと思います。

2020年9月。私が本来台湾へ出発しているはずの時期でした。しかし、新型コロナウイルスの世界的大流行により台湾への渡航ができなくなってしまったのです。半年ごとに文化大学から届く「入国はまだできません。」という内容のメールを見るたびにすごく残念な気持ちになっていました。それでも大学在学中に留学をしたいという強い気持ちがあったので、留学ができるようになるまで休学し続けようと考え、1年間休学することとしました。結果として、2年間の延期をしたのち、台湾留学へ出発できるようになったのです。

留学出発前の心情としては、不思議なことに不安な気持ちは一切なく、楽





(新竹、台中、彰化、嘉義、台南、高雄、屏東)。1番思い出に残ってるのはクラスメイトと行った高雄旅行です。何もわからない場所に行き、生活スタイルも文化も異なる人達と長い時間一緒に行動することは、新鮮で不思議な感じがして、単なる旅行では2度と味わえないような、貴重な経験になりました。

留学をしてみてよかったと強く感じたことは、国籍の異なるたくさんの友達と出会い仲を深められたことです。台湾華語を学びたいという共通の目標を持ち一緒に留学生活を送った友達は一生の宝物になったし、自分自身をいろんな面で成長させてくれたと思います。

以上が私の留学生活についてざっくりとまとめたレポートです。たった1年足らずの期間で非常に多くのことを経験したので、それらをうまくまとめて伝えられたかどうか不安ですが、もしも台湾に行って留学してみたいと考えている人を後押しできるものになれば嬉しい限りです。

て、文法や発音を学ぶ座学だけでなく、クラスメイトに対して発表したりプレゼンするのがメインの授業など多様な授業があります。その中でも1番面白くて役に立ったなあと感じた授業は、単位取得が不要で参加自由の授業でした。日常生活でよく使う単語や文法を学べる中文学習初心者に向けた授業のようでした。比較的少人数の授業で先生との距離感が近く、疑問に思うことや、気になることがあればすぐに質問できます。台湾に来て初めて中文を学習し始めた私にとって、最も有効な授業でした。



授業以外の生活について、平日夕方5時に授業が終わると、校内にあるバスケットボールコートやバレーボールコートに集まって遊んだり、台北の街に出てショッピングしたり、映画を見に行ったりしました。たまにお酒を飲みに出かけたり、ナイトクラブに行くこともありました。もちろん夜市に行って食べ歩きしたりもします。

学期間の長期休みには、台湾にいる知り合いや、交換留学のクラスメイトと一緒に旅行に出かけたりしました。



食事面に関しては、学食のほかに、大学敷地内にある寮から5分歩いた所に、麺屋、飲み物屋、果物屋などいろいろな店が集まった「美食街」があって、毎日おいしい食事を口にすることができます。



STUDY ABROAD



写真1

CLOSE-UP 研究室紹介

保健学研究科 核医学検査技術学分野

教授 高橋 康幸

はじめに

核医学検査技術学分野では、臨床経験をもとに核医学検査における定量解析の精度向上、画質の改善や被ばく線量の管理などに関する研究を行っています。奥田公一准教授と細川翔太助教の支援をいただき、今年は学部生（4年生）6名と博士前期課程1年2名、2年1名、博士後期課程1年2名、3年2名が在籍しています（写真1）。今回、当分野における研究活動をご紹介します。

高橋研究室

平成28（2016）年9月に着任し、これまで学部生32名、博士前期課程3名、博士後期課程1名と研究を進めてきました。研究拠点は本大学附属病院の放射線部を利用させていただいていますが、大学院生のうち5名は北海道、京都府、兵庫県でそれぞれ働いているため、講義は新型コロナウイルス流行前まではWeb会議システムLive Onを利用し、現在はMicrosoft Teamsによる双方通信方式の遠隔支援により自

施設で受講されています。学部生は、研究成果を専攻内の発表会とは別に放射線技術関連学会で発表することを目標として掲げています。これまで、日本放射線技術学会（JSRT）、日本診療放射線技師会、日本核医学技術学会（JSNMT）や東北放射線医療技術学術大会などで報告してきました。特に第46回JSRT秋季学術大会ではPET/MRI装置による定量評価の検証のためのファントム作成に取り組んだ八巻佳織さんが、演題名“PET/MRI装置による $^{13}\text{N-NH}_3$ 心筋血流PET画像の血流低下部位に関する検討”で学生セッ

シヨンの優秀賞に、また第77回JSRT総会学術大会では、コンプトンカメラ等でNaI-131内用療法に伴う病室の汚染状況を可視化した宿野部星さんが、演題名“NaI-131内用療法に伴う放射線治療病室の汚染状況とその防護について”でNEXT GENERATION SESSION（学生優秀演題発表）のExcellent Student Awardに選ばれました。さらに第42回JSNMT総会学術大会では、神経内分泌腫瘍診断薬 ^{111}In -Pentetreotideの撮像条件を検討した勘崎貴雄さんが、論文名“Evaluation of a Correction Method for ^{111}In -Pentetreotide SPECT Imaging of Gastroenteropancreatic Neuroendocrine Tumors”にて国際研究奨励賞を受賞しました。現研究室ではM2の鷲坂有璃さんが第13回世界核医学会でソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対する治療薬（Lutetium (^{177}Lu) oxodotreotide）の画像化を試み、演題名“Basic study on Acquisition Conditions for Lu-177 DOTATATE SPECT”を発表しました。なお私事で恐縮ですが、今年の第79回日本放射線技術学会総会学術大会にて学術賞を受賞しました（写真2）。



写真2

当研究室では、県内外の関係者に大変ご支援をいただいております。本学医学研究科 放射線腫瘍学講座 青木昌彦教授、放射線診断学講座 掛田伸吾教授、本学附属病院放射線部 成田将崇技師長や白川浩二技師ら関係者の皆様には、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。また本学理工学研究科の銭谷 勉教授らと医工連携による共同研究も行っており、新しい画像再構成法の研究として“EM-TVアルゴリズム

を用いた少数投影での骨SPECT画像再構成の検討”などの報告や核医学検査技術の他にも本専攻の医療用エックス線装置などを活用した研究を行っています。昨年度から科学研究費助成事業により福島県立医科大学先端臨床研究センターの織内 昇教授や保健科学部の三輪建太教授らと“PET/MRI装置専用精度管理ファントムの開発と安全性試験ガイドラインの策定”に取り組んでおり、検査の安全性を向上させる一助になればと考えています。

奥田研究室

奥田研究室は、本年度からスタートした若い研究室です。This world is but a canvas to our imaginations（ヘンリー・デイヴィッド・ソー）にインスパイアされ、研究室のテーマとして活動しています。私はこれまでに工学と医学の境界領域の研究に従事し、基礎及び臨床の観点



写真3

から放射線医学、とくに核医学の医用画像解析を行ってきました。今後は、核医学に加え、X線CTやMRIなどのマルチモダリティを対象にした医用画像解析に発展させていきたいと考えています（写真3）。現在は2名の学生と3Dプリンタでファントムを自作することから研究をスタートさせています。作成したファントムの水漏れに悩まされている毎日ですが、モノづくりを通して、学生には研究の難しさや楽しさを涵養できればと思っています。今後はモンテカルロ・シミュレーション、人工知能、データサイエンスを駆使し、医用画像解析を推進する予定です。また、研究成果の社会還元（臨床応用）を図るために、医師や診療放射線技師の方々との議論を通して研

究テーマの創出を目指しますので、何卒ご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

細川研究室

画像診断は医学において重要な役割を担っています。現在、多くの画像検査では放射線を利用していることから、画質と被ばくのトレードオフを考慮して撮像を行っています。画質を正しく評価することは、使用する放射線量の最適化に不可欠です。近年の核医学画像は非線形的な処理を施されて再構成されることから、従来のコントラストやノイズといった画質評価指標では視覚評価との乖離が生じることがあります。そこで本研究室では核医学画像をヒトの見え方に基づいて総合的に評価する方法を模索しています。ヒトは膨大な視覚情報の中から重要だと思われるものに視覚的注意を惹きつけられます（写真4）。視覚的注意の惹きつけやすさを示す特性を顕著性と言い、その分布を画像化したものを顕著性マップと言います。顕著性を用いることで評価者の主観的な影響を受けずに客観的に信号の視認性を評価可能となります。視覚科学は長い歴史があるものの放射線技術分野での応用は十分ではありません。異なる分野間で知見を共有する手助けとなることを期待しています。

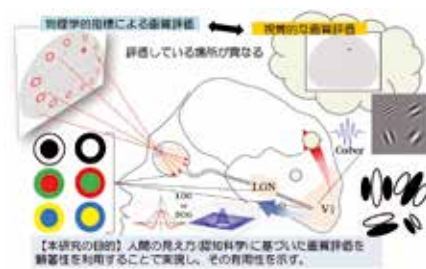


写真4

おわりに

当分野は、核医学検査技術学を多角的に捉え研究活動しており、県内外の現場の技師から問い合わせをいただいております。これからも核医学検査技術のみならず診療放射線技術の向上に頑張っ参ります。引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

TEACHER

01

人文社会科学部

文化財論講座

泉 直亮



4月から地域行動コースに所属しました。わたしは生態人類学・地域研究の視点から、農村における人びとの生業や生計活動について、東アフリカ（おもにタンザニア）と日本国内でフィールドワークを実施してきました。学部と修士の頃には岩手県の北上山地で調査していたことから、東北地方は研究者として歩み始めた思い出深い地です。本学への着任をきっかけに、青森県を中心にした北東北での調査にも着手（再開）したいと思います。

TEACHER

02

人文社会科学部

思想文芸講座

劉 青



2023年4月より着任しました劉青（りゅうせい）と申します。私は中国哲学史が専門であり、近世の道教思想や医学思想について研究しています。「虚空に羽ばたき南を圖る」というのは、かつての弘前高等学校の校歌の一節であり、『莊子』「逍遙遊」篇の冒頭に登場した内容でもあります。学問の世界で、皆さんの「扶揺」となり、南溟への道を手助けできればと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

TEACHER

03

人文社会科学部

思想文芸講座

片岡 美有季



人文社会科学部に着任しました片岡美有季（かたおか・みゆき）と申します。日本の近現代文学のなかでも、アジア太平洋戦争以降の文学と、現代女性文学を中心に研究をしています。生まれも育ちも福島県の会津ですが、斗南藩のあった青森県には以前から親しみを感じていました。これから、弘前大学で学生のみなさまと切磋琢磨して学び、大学や地域の発展に少しでも貢献できるようがんばりたいと思います。よろしくお願いします。

TEACHER

04

教育学部

附属次世代ウェルビーイング
研究センター

高橋 憲人



新設される次世代ウェルビーイング研究センターの専任教員として着任しました。芸術教育が専門で、地域の人々が自身と生活環境のモノゴトとの関わりから創造性を導く芸術ワークショップの研究をしてきました。新設のセンターでは、青森県で生きる人々のWell-beingの実現へ向けた、新たな地域ベースのLiberal Arts開発が目指されています。今年度は、地域の現状課題を把握するため、子どもたちや学校の先生たちを対象とした調査を進めて行きます。

TEACHER

05

教育学部

社会科教育

池田 泰弘



4月1日付で教育学部社会科教育講座に着任しました池田泰弘（いけだやすひろ）です。専門は法教育やNIEの授業開発研究です。3月まで在職した公立中学校での経験を踏まえ、社会科教員を志望する学生への指導や研究、ならびに本県における先生方への支援に尽力したいと考えています。先日、見学に行きました弘前城の桜、特に夜桜が印象的でした。今後は弘前のグルメ探訪に励みたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

TEACHER

06

教育学研究科

教職実践専攻

藤江 玲子



臨床心理学と教育をつなぐ視点から、子ども・若者の支援に関する研究に取り組んでいます。これまで、臨床心理士の資格を持つ教員として教職経験を重ねたのち、教員養成に携わっていました。着任し院生との日々を重ねる中で、真摯で闊達な学びの姿と教育への深い問い、子どもを思う心に心震えるような思いをしています。子どもたちの幸せのために学校と社会ができることを、院生と一緒に考えていきたいと思っています。

TEACHER

07

教育学研究科

教職実践専攻

柴崎 剛吉



今年度から教職実践専攻（教職大学院）の准教授として務めることとなりました柴崎剛吉（しばさきたかよし）と申します。これまでの教育現場における実践ノウハウや経験を大学院生各々の研究・省察に生かしていけるよう、自らも共に学ぶ姿勢で取り組み、自己研鑽につなげていきたいと思っています。「弘大1年生」として頑張って参りますのでよろしくお願い致します。

TEACHER

08

教育学研究科

教職実践専攻

村元 治



この4月に実務家教員として着任しました村元治（むらもととおさむ）と申します。

これまで、県内の小学校及び市教育委員会に勤務しておりました。教職大学院では、教育現場等での経験をもとに、より実践的な視点で話題提供をしたいと考えております。

院生とともに学びながら、微力ではありますが、教員の職能育成及び本県の教育の充実に努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

TEACHER

09

医学部医学研究科

地域医療支援学講座

横田 恵



令和5年4月1日付で赴任いたしました横田恵と申します。2年ぶりの弘前大学医学部附属病院勤務となります。専門は産婦人科、不妊症・不育症です。昨年より不妊治療が保険適応となり、治療を受けやすい体制が整ってきている印象を受けます。お子さんが欲しいという患者様のニーズに少しでも寄り添えるよう、最新の検査・治療を提供すべく日々精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

TEACHER

10

保健学研究科

看護学領域

遠野 千佳子



4月に保健学研究科に着任いたしました遠野と申します。弘前大学卒業後小児科学講座でお世話になり、市中病院で長らく一般小児科医として勤務しておりました。ここ10年ほどは岩手におりましたが、この度ご縁あって17年振りに弘前に戻って参りました。学生の皆さんには、実臨床での経験も活かした話で、子どもに関わることの意義や面白さを伝えられればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

TEACHER

11

理工学研究科

数物科学コース

野村 真理子



令和5年4月に着任いたしました野村真理子と申します。専門は理論宇宙物理学で、特にブラックホール天体現象についての研究を行っています。お茶の水女子大学で学位を取得後、大学・研究所での研究員を経て、前職では呉工業高等専門学校の一般科目教員として教育・研究に携わってきました。

弘前大学では研究をさらに深め、教育を通じて自然科学の面白さを学生に伝えたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

TEACHER

12

農学生命科学部

生物学科

橋本 洸哉



初めまして。2023年2月1日に弘前大学農学生命科学部・生物学科に助教として着任しました。橋本洸哉と申します。植物を取り巻く生物間相互作用と、それが生態系にもたらす波及効果について研究しています。また、最近では温暖化実験による気候変動の影響評価も行っています。未熟ではございますが、学部や地域への貢献を目指して参りますので、皆さま何卒よろしくお願いいたします。

TEACHER

13

農学生命科学部

食料資源学科

直井 崇



2023年4月1日付で農学生命科学部食料資源学科に着任しました直井崇と申します。専門は植物病理学で、主に植物ウイルス・ウィロイドの病原性や発病機構に関する研究を行ってきました。今後はこれまでの研究をさらに発展させるとともに、地域社会の植物病害に関する問題にも取り組んでいきます。弘前大学は私の母校であり、教員として戻ってくることができて大変嬉しく思っています。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

TEACHER

14

農学生命科学部

食料資源学科

DINH THI LAM

ディン ティ ラム



My name is Dinh ThiLam. I has been appointed to the Faculty of Agriculture and Life Sciences in April 2023. My research is on rice breeding with a functional genomics approach that combines genomics, genetics, and plant physiology with agronomy.

Globalization has led to unprecedented levels of change in every area of life with its impact expanding. Whereby it is leading to the universities having to change as growing numbers of international students flow from outside. Origin a researcher from a Vietnamese academic institute, and trained in Japan (Alumni of Hirosaki University, and a postdoc at Japan International Research Center for Agricultural Sciences JIRCAS, Tsukuba, Ibaraki), I believe wider cultural diversity at Hirosaki University will support courses in a wide range of subjects, and contribute to international research collaboration with foreign partners as well.

TEACHER

15

農学生命科学部

附属白神自然環境研究センター

相馬 純



陸生カメムシ類の種多様性を解明し、系統関係を調べることで、その多様化と分布形成に、寄主転換や地理的隔離がどのように影響してきたかを検証しています。陸生カメムシ類のうち、とくに植食性のゲンバヤシ科の分類を専門としていますが、オオホシカメムシ科など幅広い分類群を研究対象としています。これまでの研究で、ゲンバヤシ科とオオホシカメムシ科の普通種が抱えていた問題を解決しました。

これからは青森県での野外調査に重点を置き、各地域に特徴的な植生に依存する昆虫の調査にも取り組んでいきます。

TEACHER

16

研究・イノベーション推進機構

山科 則之



2023年4月に着任した山科則之（やましなのりゆき）です。

URAとして産学連携や外部資金獲得支援、ベンチャー創出支援などを行います。

コラボ弘大5Fの学術研究支援室にいますので、気軽に相談にお越しください。

特任教員として2016年9月より活動を行っていましたので、弘前生活も7年目となっています。未利用資源を活用した地域振興なども行っています。よろしくお願いいたします。

TEACHER

17

研究・イノベーション推進機構

平井 貴人



初めましての方は初めまして。そうでない方はいつもお世話になっております。研究・イノベーション推進機構の平井貴人です。2023年4月より新たな身分で採用となりました。安全保障輸出管理を初めとした、リスクマネジメント関連の業務に携わっております。本学の研究活動及び事務機構の運営が適切になされるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。改めまして宜しくお願い致します。



TOPICS



令和5年度 弘前大学学生ボランティア活動 助成団体採択書交付式を実施

学内外でボランティア活動を実施している
本学課外活動団体への活動助成費採択書交付
式を令和5年6月14日（水）に事務局2階特
別会議室で行いました。

交付式では、福田学長から今年度申請の
あった4団体の各出席者に活動助成費採択書
が手渡されました。続いて、各団体出席者か
ら日頃の活動内容について紹介がありました。

福田学長からは、「採択おめでとうございます。
何十年もの長い間継続されてきた団体や、
各方面から注目される活動を行っている団体

など、いずれも素晴らしい活動ですので、ぜ
ひ継続、発展させていただきたいと思います。
今後の活動に期待しています。」と学生の活動
を力付ける言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体出
席者から、新入生勧誘状況や活動状況の説明
があり、4年ぶりに対面形式により開催され
た「部活・サークル大勧誘会」や、団体で独
自に実施した体験会などを通じて多くの新入
生が活動に興味を持ち、加入している様子を
聞くことができました。

令和5年度 ボランティア活動助成団体

団体名	申請代表者名	所属学部
児童文化研究部KIDS'	堀 文 哉	農学生命科学部
僻地教育研究会	宮 森 琴 子	理工学部
ひまわりサークル	濱 田 雪 音	医学部保健学科
one step to OBGYN プロジェクト	中 山 桃 花	医学部保健学科

令和5年度 部活・サークル 大勧誘会を 実施しました

毎年4月に、各部活・サークルの勧誘を一斉におこない、新入生に、より多くの部活・サークルに興味や関心を持ってもらうため、学生団体「新歓本部実行委員会」が中心となり、大勧誘会を開催しています。

今年度は、4月15日(土)・16日(日)の2日間にわたり開催されました。



ステージでのパフォーマンス

令和2年度から4年度まではオンラインでおこなわれており、対面での開催は4年ぶりとなりました。

1日目は、50周年記念会館でのステージ発表がおこなわれ、24団体が様々なパフォーマンスを披露しました。

2日目は、総合教育棟内の講義室に71団体がブースを設け、作品の展示や体験会などを開き、新入生に部活やサークルの雰囲気を知ってもらう活動をおこないました。

両日で延べ1,150人の新入生が訪れ、活気あふれる2日間となりました。



会場の座席いっぱいの新入生たち



チラシを配ってアピール!



ウチのブース見て行って~!



たくさんの新入生の来場があり、
2日間とも実行委員の想定を上回る
賑やかな大勧誘会となりました。

今回のこの会がサークルを決める
きっかけとなれば嬉しいです。

実行委員長 理工2年 家上 凌弥

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本号は、特集として「新学期を迎えて」というタイトルのもと、多くの先生方、新入生、在校生の声をお届けしています。

新入生の皆さんは、入学後、数ヶ月が過ぎ、少しずつ大学生活にも慣れてきた頃でしょうか？弘前公園の美しい桜は観賞できたでしょうか？

新入生の皆さんは、コロナの影響により、様々な制限下での高校生活を余儀なくされたのではないかと思います。現時点では、コロナも収束し、我々の生活は日常生活に戻りつつあります。是非、大学生生活を思う存分満喫して欲しいと思います。

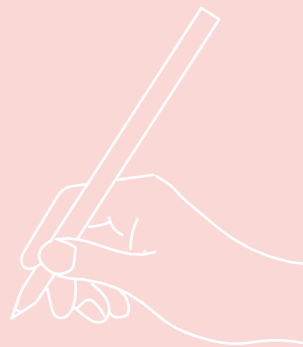
多くの友人をつくり、勉強だけでなく、課外活動などを謳歌してください。この弘前という町は、決して都会のように派手ではありませんが、落ち着

編集後記

いた城下町であり、人々が支え合いながら心豊かに生活することが出来る町です。自身の経験からも、皆さんにとって、大学生活は一生のうちでもっとも充実した時間のひとつとなることでしょう。皆さんの輝く未来にエールを送りたいとおもいます。

「学園だより」は年3回出版されます。それぞれの回には特集があり、「学園だより」を読むことで、弘前大学の多くの情報を得ることが出来ると思います。引き続き本学広報誌をよろしく願います。

(吉澤)



弘前大学 オリジナルグッズ 新商品

弘前大学附属藤崎農場産りんごを使用した

「あおり林檎セミドライ」 「あおり林檎ショコラ」



「あおり林檎セミドライ(税込 320 円)」
りんごの風味を残すため、煮詰めずシンプルに蜜漬け。蜜漬けしたりんごは、温度や湿度の変化に合わせた絶妙な乾燥時間で、しっとり食感に上げています。

「あおり林檎ショコラ(税込 370 円)」
半生食感のセミドライりんごをくちどけの良さ、上品な甘味が特徴のクーベルチュールチョコレートでしっとり包みました。ホロツととろけるチョコレートのくちどけをお楽しみください。

『学会などに行ったときに、弘前のお土産として「日本酒 弘前大学」もいいが、みんながもっと手軽に楽しめるものがあると嬉しい。』というご要望をうけ、今回の新商品ができました。

一口サイズなので食べやすく、チャック付きで便利です。
お土産にはもちろん、自分へのご褒美にもどうぞ。

【販売店舗】

弘前大学生協 SHAREA・Cerisier・FERIO・Clover



人気の「日本酒 弘前大学」

弘前大学附属金木農場産「豊盃米」使用、弘前の蔵元・三浦酒造にて醸造された純米吟醸酒です。

日本酒「弘前大学」の売上のうち 5%は「弘前大学就学支援基金」へ寄附させていただいております。

2022 年度は 1074 本の販売があり、112,287 円が大学への寄付となります。



“まなたび”とのコラボ商品「オリジナルネクタイ」

新入生向け講座「学びと体験・出発(たびだち)講座」での企業とのチャレンジプロジェクトで「洋服の青山」とコラボして作成した徽章入りシルク 100%のネクタイです。デザインは弘大生約 600 人のアンケートから決定しました。入学や卒業の記念品としても人気です。





弘前大学

学園だより

vol.207 / 2023年6月発行 題字：福田眞作 学長

編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長：李 永俊（教育委員会）

委員：近藤 史（人文社会科学部）

吉澤 忠司（医学研究科）

上原子晶久（理工学研究科）

高松 達典（学生課）

帆苅 基生（教育学部）

高橋 康幸（保健学研究科）

吉仲 怜（農学生命科学部）

坂本 桃子（学生課）

印刷：コロニー印刷

弘前大学

検索

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: jm3113@hirosaki-u.ac.jp